

美しい文化があるから日本が好き

私と日本との縁結びは、2018年、母と日本に旅行したことがきっかけだった。一週間で東京、京都、大阪など、色々な街を観光し、様々な風景を楽しんだ。旅行で、日本語がほとんど話せなかった私は初めて勇気を出して地下鉄駅で通行人に道を尋ねたり、商店街で店員さんに声をかけたりした。このような経験から、私は日本が好きになった。

日本に旅行した後、私は日本文化を探究しつつ、その領域に急速に興味を持ち始めた。暖かい地方で生まれ育った私は、川端康成が書いた「雪国」という作品の中の眩しい景色と物の哀れのテーマに感動を覚えた。中国の伝統絵画の画家である私は、草間彌生の作品の中で、普段あまり見られない赤と黒のかぼちやの作品と、その作品の幻覚に心が惹きつけられた。演劇の授業でも、能楽演技者の丹念な歩き方から生み出した幽玄の美しさがすごく気に入った。

また、私は日本語そのものにも興味がある。私の母語、中国語と異なり、日本語は膠着語なので、文の構成が大変違っている。さらに、同じ書き方の単語でも、中国語と日本語では、意味が異なる場合もある。私は言語と文化を比較することによって、日本語を本気で勉強したくなった。私にとって、言語は人と人の間に築く橋である。視野をより広げるため、私は毎日、日本語の上達のために努力している。

大学に入って以来、日本の伝統文化が好きな私は若干の文学と芸術の授業を取っていた。先学期の美術史の授業で、私は二条城の遠侍の間について文章を書いたので、なおさらこの江戸時代の荘厳の建物に参観したくなる。今学期取っている文学の授業で、古都の静謐と優雅を見事に描いた「千羽鶴」を読み、日本文学の繊細な精髓と魅力に感銘を受けている。日本の文化は歳月とともに蓄積していく間に、千年を超えても新しい価値が現れ、輝かしく光っている。そのような豊かな文化を持つ日本が、私はとても好きである。